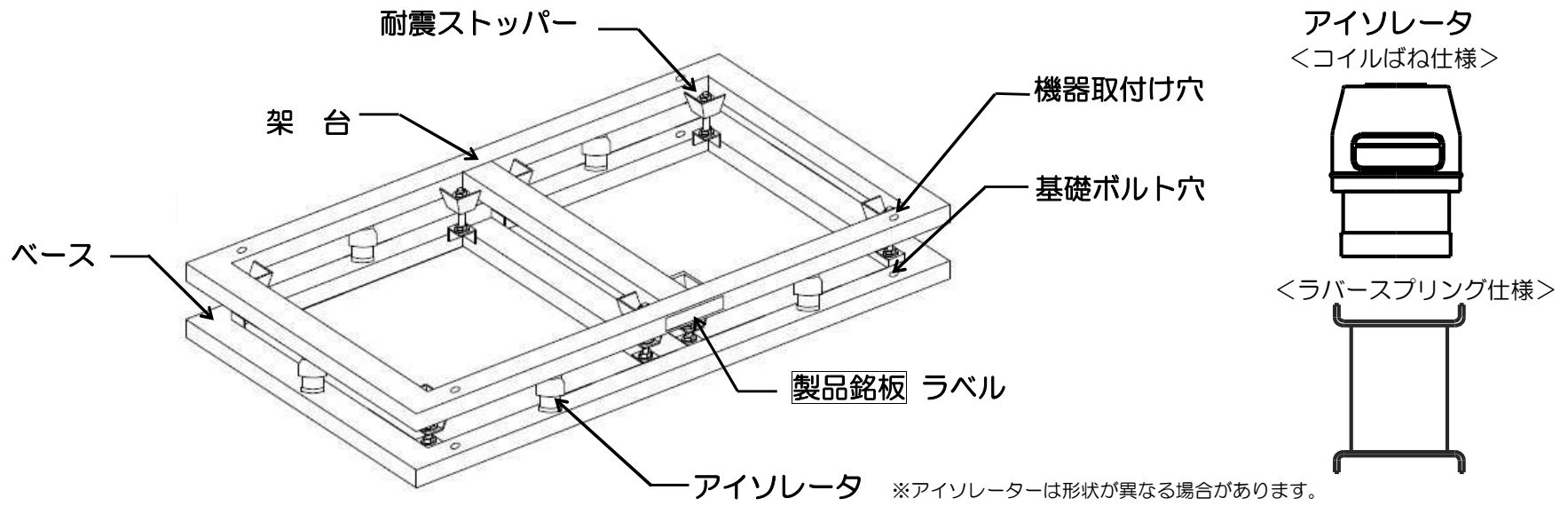


スプリング防振台 取扱説明書

この度は弊社防振台をご採用いただきましてありがとうございます。
据付工事を行う前に必ずお読みくださり、十分ご理解のうえ正しく施工を行ってくださるようお願い致します。

据付の前に

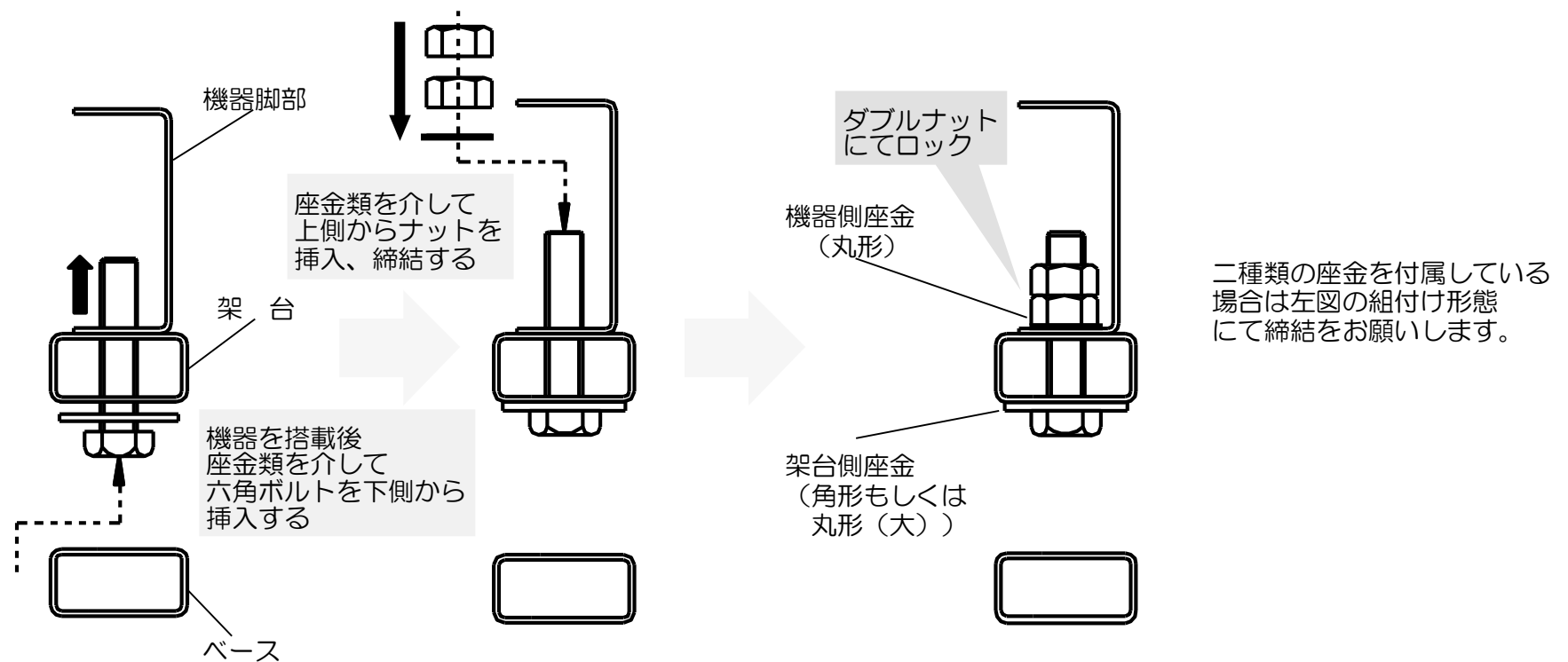
- 製品銘板ラベル中の品番がご注文の品と一致しているかご確認ください。
- 付属品（ボルト・ナット類）をご確認ください。
- 基礎ボルトは付属しておりません。
お客様にてご用意下さい。



防振台及び機器の据付

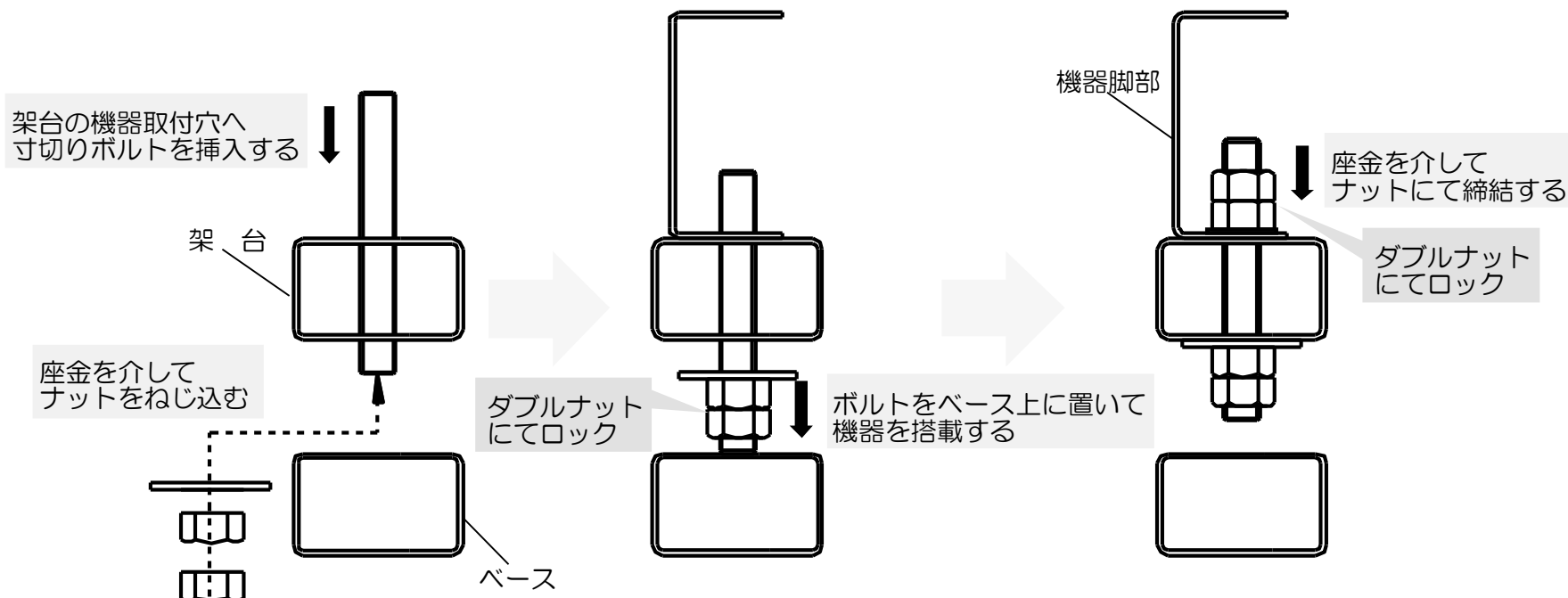
- 1 機器と防振台の取付方向を確認したうえで、防振台を基礎上に設置し防振台ベースを基礎ボルトで仮止めして下さい。
- 2 このとき基礎及び防振台の水平をご確認ください。
基礎施工上の注意事項は裏面を参照下さい。
- 3 防振台ベースを基礎ボルトにて強固に固定して下さい。
- 4 下記の据付手順に則り、機器取付けボルトの仮止め及び機器の搭載を行って下さい。
- 5 機器と架台を機器取付けボルトにて強固に固定して下さい。

<機器取付けボルトが六角ボルトの場合の据付手順>



裏面もお読みください

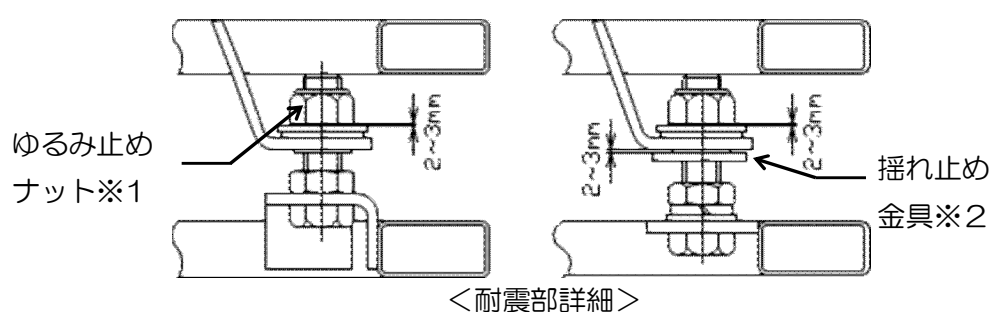
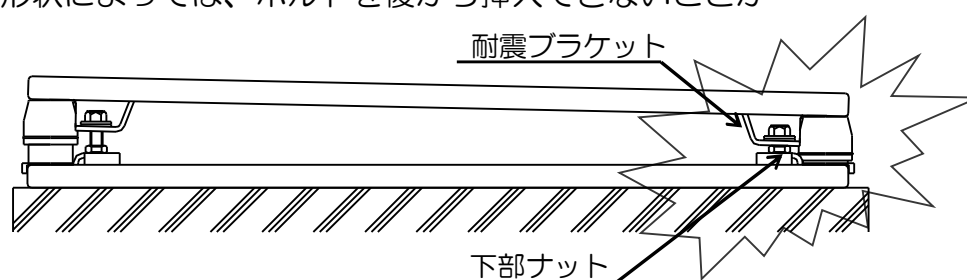
<機器取付けボルトが寸切ボルトの場合の据付手順>



※ボルトを挿入せずに機器を搭載した場合、機器脚部形状によっては、ボルトを後から挿入できないことがあるので注意が必要です。

一方の耐震ブラケットと下部ナットが干渉するほど傾いている場合は調整が必要となります。

- ① ゆるみ止めナット (※1) をゆるめ、架台をジャッキアップし、架台の低い側にアイソレータを移動させて水平になるように調節して下さい。
 - ② 架台が水平になりましたら、耐震ストッパーのゆるみ止めナットとゴムブッシュの間隔が2~3mm程度になるように調節して下さい。
 - ③ 揺れ止め金具付 (※2) は金具を上部に上げ、2~3mm程度になるように調節して下さい。
- ※ 耐震ストッパーのナットを締め込んだままにしておきますと期待する防振効果が得られません。



基礎施工上の注意事項

- 基礎はレベルの出た全面基礎とし、ベースと密着するように平滑に施工して下さい。
- 基礎据付面に凹凸がある場合や傾斜が付いている場合は、モルタルにて補修するか、防振台ベースとの間にライナー等を挿入して補正して下さい。
- やむを得ずはり形基礎となる場合は、ベース部を出来るだけ支持する形状とするかH鋼等の剛性が高く歪みの出ないものの上に設置して下さい。
- 基礎ボルトは耐震基準に準じて埋設して下さい。

配管やダクトとの接続時注意事項

- ダクトを接続する場合、キャンバスダクト等を介して接続して下さい。
- 配管の接続は、Z曲げやループ配管等にて振動を吸収する施工をして下さい。
- 配管やダクトなどの重量は防振台設計には含まれておりません。また防振台に無理な力が加わらないように十分サポートして下さい。
- 溶接作業などの火花が当たらないように対策して作業して下さい。

ご注意

- ※ 廃棄する場合は本体ゴム部：産業廃棄物、その他：リサイクル鉄材又はリサイクル樹脂材として下さい。
- ※ 作業時の安全確保には十分な配慮をお願い致します。
- ※ 予告無く本体の構造等を一部変更することがあります。